

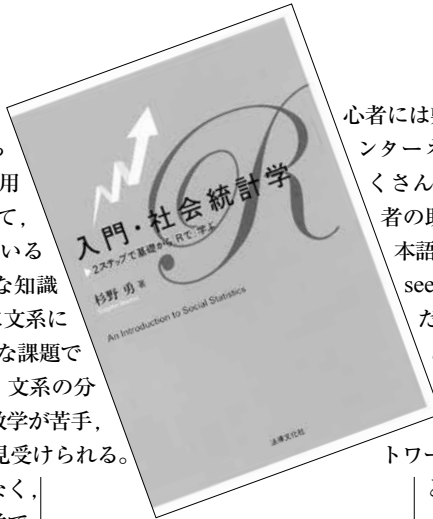
統計学の知識は、様々な領域で不可欠のものとなっている。ビッグデータなどの用語が流行語となる昨今において、その重要性は日に日に増しているように感じられる。この重要な知識を体系的に伝えることは、特に文系に分類される分野において、困難な課題であり、創意工夫が求められる。文系の分野では、全員ではないものの、数学が苦手、嫌いといった学生がしばしば見受けられる。

私が専門とする心理学だけでなく、仄聞する限り、社会学や経済学でも似た状況にあるようだ。

今回書評で取り上げる『入門・社会統計学』は、このような困難な課題に挑む意欲的な試みである。私が見る限り、特徴は2つある。一つはフリーの統計解析ソフトRを積極的に利用したことである。もう一つは記述統計、重回帰分析など、各章で取り上げるトピックについて、基礎と発展の2つの段階を用意したことである。

統計学の教科書は、解析方法の理論的な解説に重点を置くものが多い。しかし、本書は、理論に重点を置いた典型的な教科書でもなければ、ソフトウェアの使い方に重点を置いたハウツー本でもない。双方の要素を持っている珍しい本である。本書の章立てを見てみると、記述統計にはじまり、t検定や分散分析、果てにはマルチレベル分析までぎっしりと内容が詰まっている。これらの様々な解析手法について、理論的な解説を行うだけでなく、Rで解析するためのコードが紹介される。Rのコードがあることで、読者は統計の理論的な側面とともに、実際の解析に役立つ実践的な知識を学ぶことができる。つまり、理論と実践を備えた統計学の知識を身につけることができる。

Rは、ソースコードを書くプログラミング要素が多いソフトウェアである。コードを書くことは初



入門・社会統計学

2ステップで基礎から[Rで]学ぶ

杉野 勇 著

法律文化社
2017年
A5判, 246ページ
3,024円

心者には敷居が高い作業だ。ただし、インターネット上にはRについてのたくさんの情報があり、それらが初学者の助けになる。Rの記事(特に日本語記事)に特化した検索ならば、seekrという検索エンジンが便利だ(<http://seekr.jp>)。googleなどの汎用検索エンジンと比べ、適切な情報にヒットする確率が飛躍的に高くなる。ネットワーク上でコミュニケーションを

とりながら質問がしたいなら、slackのr-wakalangというオープンなチャットルームをおすすめする。信頼できる好事家が常駐していて丁寧に教えてくれる。本書を読み進める中でRを使った作業につまずいたら、インターネット上の情報を活用して試してほしい。

この本にはぎっしりと内容が詰まっている。そうなりと読みやすさが損なわれたり、教科書として使い勝手が悪くなったりすることが多い。本書は、各章で基礎と発展というレベル分けを行うことで、それを回避

することを目指したのだろう。良い工夫である。

ただ、やはり内容が多い。この書籍は社会調査士資格取得カリキュラムのD(社会調査に必要な統計学に関する科目)、E(多変量解析の方法に関する科目)、I(多変量解析に関する演習(実習)科目)の3領域に対応するそうである。なかなかどうして重厚だ。講義の教科書として使うのなら、講師による内容の取捨選択が必要になるだろう。自習テキストとしてつかうのなら、初学者は基礎に絞って8章の重回帰分析まで身につければ、まずは十分ではないだろうか。もっとも、じっくり学びたいのなら制限なくどこまでも学ぶとよい。内容が詰まっている本書はそのような自由を保障してくれる。